編集後記

▼六月一日「新潟県の子育て百科」出版記念の集会をもち「新潟県の子どもの心身の発達」というテーマでシンポジウムを開催しました。本号の特集はその報告集です。子育ての様態が大きく変化して来ています。地域の中での人々のつながりが薄くなって、そこにあった子育ての課題が学校や家庭にみな持ち込まれていると識者は指摘しています。しかし、学校には行政の、家庭には企業の影が大きくのしかかり、その学校その家庭の実情にあった子育ての課題をさぐるゆとりをなくしているのではとおもえる昨今です。

▼山崎健氏は（新潟大学教育学部）研究室でおこなった子どもの調査をしめし、新潟県でも子どもたちの生活が劇的な変容をしていることを提示され、これへの対応は対処療法的な「体力づくり」「健康づくり」でなくて学校づくりをふくめた地域づくり、家庭づくりに関わることのできる「にいがたの子育て、親育て、大人育てが問われている」のではという提起されました。

以下特集は新潟県の子育てにかかわり日々奮闘している現場の方々に目の前の子どもたち親とのかかわりの中からみえるものを書いて頂きました。読者諸兄姉のご感想をおよせください。

▼出版記念集会で「『新潟県の子育て百科』の方法と意味」と題して牧柾名氏から記念講演をしていただきました。さいたま教育文化研究所の野々垣努氏にも同題で寄稿して頂きました。力量不足の所員たちが会員のご協力をえて精一杯の努力して仕上げたこの本の持つ意味を再確認し、今後の研究活動、会の運営を改善していくのに参考になるたくさんの示唆をいただきました。

▼多田千尋氏のお話はこの春新潟市の「大江山の地域づくりと子育てを考える集会」での講演をもとに書いていただいたものです。集会に参加したお年寄りがお話を聞いて感動していました。私もその年寄りの一人です。お年寄りが子どもたちと日常的にふれあい、きらめいている、そんな場面にをつくろうと挑戦している大江山もすごい。

▼新潟県の自然シリーズを今後もつづけていきさいと考えています。先におきた蒲原沢土石流災害をもたらした姫川のことが地域の歴史もふくめてよくわかりました。

会員の皆さん、子どもにも親にも、そして地域教材をそろえるのに四苦八苦している教師にも郷土の自然や社会の成り立ちをコンパクトにわかりやすく解説してくださる方々をご紹介ください。

にいがたの教育情報 No.51

1997年9月10日発行

編集・発行　にいがた県民教育研究所

発行人　長﨑　明

〒951 新潟市東中通1−86 山崎ビル

電話・FAX (025) 228−2924

振替口座・00640−0−12332

印刷所・中央印刷さぁびす

本誌内容の無断転載を禁じます。